

グループワーク用 事例

これらの各ケースに記載されている内容は、特記事項等の記入の模範例や基本調査項目の選択基準を提示するものではありませんので、その点にご留意ください。

取扱注意

介護認定審査会資料

事例 1

合議体番号： 000001 No. 1

被保険者区分：第1号被保険者 年齢：68歳 性別：女
申請区分：更新申請 前回要介護度：要支援1

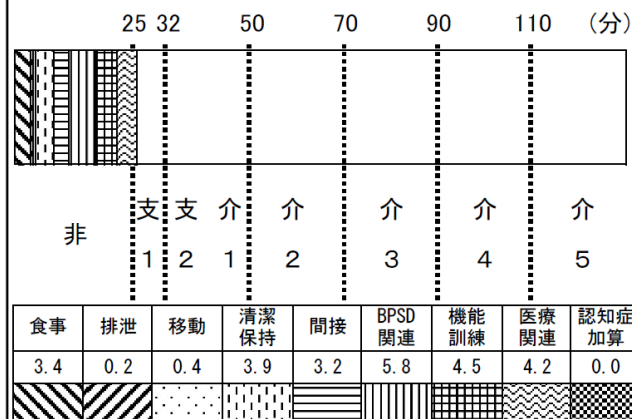
現在の状況：居宅（施設利用なし）
前回認定有効期間：12月間

1 一次判定等

（この分数は、実際のケア時間を示すものではない）

一次判定結果：要支援1

要介護認定等基準時間：25.6分



警告コード：

3 中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
88.7	97.0	100.0	99.3	54.6

4 日常生活自立度

障害高齢者自立度：A1
認知症高齢者自立度：IIa

5 認知機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度
認定調査結果：IIa
主治医意見書：IIb
認知症自立度II以上の蓋然性：
状態の安定性：安定
給付区分：介護給付

6 現在のサービス利用状況（予防給付）

介護予防訪問介護（ホームヘルプサービス）	0回/月
介護予防訪問入浴介護	0回/月
介護予防訪問看護	0回/月
介護予防訪問リハビリテーション	4回/月
介護予防居宅療養管理指導	0回/月
介護予防通所介護（デイサービス）	4回/月
介護予防通所リハビリテーション	0回/月
介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）	0日/月
介護予防短期入所療養介護	0日/月
介護予防特定施設入居者生活介護	0日/月
介護予防福祉用具貸与	0品目
特定介護予防福祉用具販売	0品目/6月間
住宅改修	なし
介護予防認知症対応型通所介護	0日/月
介護予防小規模多機能型居宅介護	0日/月
介護予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	0日/月

2 認定調査項目

	調査結果	前回結果
第1群 身体機能・起居動作		
1. 麻痺（左一上肢） （右一上肢） （左一下肢） （右一下肢） （その他）	-	-
2. 拘縮（肩関節） （股関節） （膝関節） （その他）	-	-
3. 寝返り	つかまれば可	-
4. 起き上がり	つかまれば可	-
5. 座位保持	-	-
6. 両足での立位	-	-
7. 歩行	-	-
8. 立ち上がり	つかまれば可	-
9. 片足での立位	-	-
10. 洗身	-	-
11. つめ切り	全介助	-
12. 視力	-	-
13. 聴力	-	-
第2群 生活機能		
1. 移乗	-	-
2. 移動	-	-
3. えん下	見守り等	-
4. 食事摂取	-	-
5. 排尿	-	-
6. 排便	-	-
7. 口腔清潔	-	-
8. 洗顔	-	-
9. 整髪	-	-
10. 上衣の着脱	-	-
11. スポン等の着脱	-	-
12. 外出頻度	-	-
第3群 認知機能		
1. 意思の伝達	-	-
2. 毎日の日課を理解	-	-
3. 生年月日をいう	-	-
4. 短期記憶	-	-
5. 自分の名前をいう	-	-
6. 今の季節を理解	-	-
7. 場所の理解	-	-
8. 徘徊	-	-
9. 外出して戻れない	-	-
第4群 精神・行動障害		
1. 被害的	-	-
2. 作話	-	-
3. 感情が不安定	-	-
4. 昼夜逆転	-	-
5. 同じ話をする	-	-
6. 大声を出す	-	-
7. 介護に抵抗	-	-
8. 落ち着きなし	-	-
9. 一人が出たがる	-	-
10. 収集癖	-	-
11. 物や衣類を壊す	-	-
12. ひどい物忘れ	ときどきある	-
13. 独り言・独り笑い	-	-
14. 自分勝手に行動する	-	-
15. 話がまとまらない	-	-
第5群 社会生活への適応		
1. 薬の内服	一部介助	-
2. 金銭の管理	一部介助	-
3. 日常の意思決定	特別な場合以外可	-
4. 集団への不適応	-	-
5. 買い物	全介助	-
6. 簡単な調理	-	-

<特別な医療>

点滴の管理	気管切開の処置
中心静脈栄養	疼痛の看護
透析	経管栄養
ストーマの処置	モニター測定
酸素療法	じょくそうの処置
レスピレーター	カテーテル

調査実施日 令和〇年〇月〇日

保険者番号 *****

被保険者番号 *****

認定調査票（特記事項）

事例 1

概況

夫との2人暮らしだが、夫は朝から夕方まで仕事に出ているため、日中は一人で過ごしている。市外に在住する娘が2人いる。5年前に脳梗塞を発症し、左上下肢の麻痺が出現した。糖尿病があり、内服治療中だが、食事療法や運動は特に行っていない。夫の立ち合いのもと調査を実施。

1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無、1-2 拘縮の有無、1-3 寝返り、1-4 起き上がり、1-5 座位保持、1-6 両足での立位、1-7 歩行、1-8 立ち上がり、1-9 片足での立位、1-10 洗身、1-11 つめ切り、1-12 視力、1-13 聴力

(1-1) 両上下肢共に確認動作は行えた。

(1-2) 関節の可動域制限はない。

(1-3) 右手でベッド柵につかまり、ゆっくり寝返りすることができた。「2. つかまれば可」を選択。

(1-4) 布団に手や肘をつき、起き上がることができた

(1-5) 起き上がることができた。

(1-6) 支えなしで両足立位保持できた。

(1-7) 平坦な場所で5m程度であれば、何もつかまらずに1人で歩行できた。

(1-8) 近くのものにつかまり手をつけば、立ち上がることができた。「2. つかまれば可」を選択。

(1-9) 支えなしで片足立位保持できた。

(1-11) うつむくと気分不良になるため、手・足とも夫に介助されている。「3. 全介助」を選択。

2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗、2-2 移動、2-3 えん下、2-4 食事摂取、2-5 排尿、2-6 排便、2-7 口腔清潔、2-8 洗顔、2-9 整髪、2-10 上衣の着脱、2-11 ズボン等の着脱、2-12 外出頻度

(2-2) 自宅内は、近くにあるものや壁につかまり1人で移動しているが、転倒することがある。

(2-3) 食事の際、固形物でむせるため、「2. 見守り等」を選択。

(2-5) トイレに行き、失禁時は自分でパッドを交換。デイサービスでは職員が定時で誘導。頻度で「1. 介助されていない」を選択。

(2-6) 一連の行為は自分で行っているが、紙パンツに便が付着しているときがある。「1. 介助されていない」を選択。

(2-10・2-11) 時間はかかるが、自分で着脱している。「1. 介助されていない」を選択。

(2-12) 週1回デイサービス利用。月1回通院で帰りに夫と一緒に買い物。週1回他市の娘宅訪問。

3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達、3-2 毎日の日課を理解、3-3 生年月日を言う、3-4 短期記憶、3-5 自分の名前を言う、3-6 今の季節を理解、3-7 場所の理解、3-8 徘徊、3-9 外出して戻れない

(3-1) 常時誰にでも自分の意思伝達ができる。

(3-2～3-7) 全て正答。

4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的, 4-2 作話, 4-3 感情が不安定, 4-4 昼夜逆転, 4-5 同じ話をする, 4-6 大声を出す, 4-7 介護に抵抗, 4-8 落ち着きなし, 4-9 一人で出たがる, 4-10 収集癖, 4-11 物や衣類を壊す, 4-12 ひどい物忘れ, 4-13 独り言・独り笑い, 4-14 自分勝手に行動する, 4-15 話がまとまらない

(4-12) ゴミの分別を教えてもすぐ忘れ全くできないため、週 2 回夫がゴミを分別している。また、月に 1 回鍋こがしをする。「2. ときどきある」を選択。

5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服, 5-2 金銭の管理, 5-3 日常の意思決定, 5-4 集団への不適応, 5-5 買い物, 5-6 簡単な調理

(5-1) 一連の行為は自分で行っているが、残薬があるため、「2. 一部介助」が必要。

(5-2) 少額の自己管理や計算を行っているため、「2. 一部介助」を選択。

(5-3) 食べたいものや着たい服など、日常的なことであれば自己判断して行動できるが、新しいことや突発的なこと、治療方針などは判断できないため、介護者の支援が必要である。「2. 特別な場合を除いてできる」を選択。

(5-5) 日用品・食料品など必要なものは夫が判断しながら購入している。「4. 全介助」を選択。

6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

特記する事項なし。

7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）, 7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

(7-1) 家屋内は支えなしで 5m 程は歩行できるが、普段は家具や手すり等を伝いながら移動。下肢の上りは悪くすり足で歩行不安定。つまづきや転倒等もみられ、移動時の見守りや外出時の介助が必要な状態である。「A1」を選択。

(7-2) 食事や運動・内服等に声掛けを要す。「II a」を選択。

取扱注意

介護認定審査会資料

事例 2

合議体番号： 000001 No. 1

被保険者区分：第1号被保険者 年齢：87歳 性別：女
申請区分：区分変更申請 前回要介護度：要介護2

現在の状況：介護老人保健施設
前回認定有効期間：12月間

1 一次判定等

(この分数は、実際のケア時間を示すものではない)

一次判定結果：要介護4

要介護認定等基準時間：99.3分

	25	32	50	70	90	110	(分)
食事	1.1	21.5	10.4	13.0	2.2	5.8	3.2
排泄							
移動							
清潔保持							
間接							
BPSD関連							
機能訓練							
医療関連							
認知症加算							

非 支 支 介 介 介 介 介

1 2 1 2 3 4 5

警告コード：

3 中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
17.3	0.0	57.3	100.0	11.6

4 日常生活自立度

障害高齢者自立度：C2
認知症高齢者自立度：Ⅲa

5 認知機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度
認定調査結果：Ⅲa
主治医意見書：Ⅲa
認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性：
状態の安定性：不安定
給付区分：介護給付

6 現在のサービス利用状況(なし)

2 認定調査項目

	調査結果	前回結果
第1群 身体機能・起居動作		
1. 麻痺(左一上肢)	ある	-
(右一上肢)	ある	-
(左一下肢)	ある	-
(右一下肢)	ある	-
(その他)	-	-
2. 拘縮(肩関節)	ある	-
(股関節)	-	-
(膝関節)	ある	-
(その他)	ある	-
3. 寝返り	できない	-
4. 起き上がり	できない	-
5. 座位保持	できない	-
6. 両足での立位	できない	-
7. 歩行	できない	-
8. 立ち上がり	できない	-
9. 片足での立位	できない	-
10. 洗身	全介助	-
11. つめ切り	全介助	-
12. 視力	1m先が見える	-
13. 聴力	やっと聞こえる	-
第2群 生活機能		
1. 移乗	全介助	-
2. 移動	全介助	-
3. えん下	できない	-
4. 食事摂取	全介助	-
5. 排尿	全介助	-
6. 排便	全介助	-
7. 口腔清潔	全介助	-
8. 洗顔	全介助	-
9. 整髪	全介助	-
10. 上衣の着脱	全介助	-
11. スボン等の着脱	全介助	-
12. 外出頻度	月1回未満	-
第3群 認知機能		
1. 意思の伝達	ときどきできる	-
2. 毎日の日課を理解	できない	-
3. 生年月日をいう	できない	-
4. 短期記憶	できない	-
5. 自分の名前をいう	-	-
6. 今の季節を理解	-	-
7. 場所の理解	できない	-
8. 徘徊	-	-
9. 外出して戻れない	-	-
第4群 精神・行動障害		
1. 被害的	-	-
2. 作話	-	-
3. 感情が不安定	-	-
4. 昼夜逆転	-	-
5. 同じ話をする	-	-
6. 大声を出す	-	-
7. 介護に抵抗	-	-
8. 落ち着きなし	-	-
9. 一人で出たがる	-	-
10. 収集癖	-	-
11. 物や衣類を壊す	-	-
12. ひどい物忘れ	-	-
13. 独り言・独り笑い	-	-
14. 自分勝手に行動する	-	-
15. 話がまとまらない	-	-
第5群 社会生活への適応		
1. 薬の内服	全介助	-
2. 金銭の管理	全介助	-
3. 日常の意思決定	日常的に困難	-
4. 集団への不適応	-	-
5. 買い物	全介助	-
6. 簡単な調理	全介助	-

<特別な医療>

点滴の管理：気管切開の処置：
中心静脈栄養：疼痛の看護：
透析：経管栄養：ある
ストーマの処置：モニター測定：
酸素療法：じょくそうの処置：ある
レスピレーター：カテーテル：

認定調査票（特記事項）

事例 2

概況

夫と2人暮らしだったが、認知症症状が重くなり、被害妄想が出るなど近所に迷惑をかけるようになったため、令和〇年〇月より介護老人保健施設に入所している。市内に在住する息子が1人いる。3か月前、食事中に食べ物が喉に詰まり、反応・意識がなく救急搬送された。脳梗塞と診断され、そのまま入院。右麻痺が残り、寝たきり状態となった。摂食障害でえん下困難となったため、鼻腔から経管栄養が行われるようになった。先月退院し、施設に再入所となっている。寝たきり状態で言葉がはっきりと聞き取れないときもあるなど、以前より身体状態が変わり介護量も増えたため、申請した。糖尿病がある。施設職員から聞き取りを行った。

1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無、1-2 拘縮の有無、1-3 寝返り、1-4 起き上がり、1-5 座位保持、1-6 両足での立位、1-7 歩行、1-8 立ち上がり、1-9 片足での立位、1-10 洗身、1-11 つめ切り、1-12 視力、1-13 聴力

(1-1・1-2) 右上肢、右下肢ともに麻痺で自力では動かすことができなかった。左下肢はわずかに上がっただけで保持できず、左上肢は20～30度程度しか上がらなかった。可動域制限が左膝関節・両肘関節にあり真っ直ぐに伸展ができず、両肩関節も他動で60度程度しか挙上できなかった。

(1-3) 自力では寝返りが困難なため、「3. できない」を選択。職員が体位交換を行っている。

(1-4) 自力では起き上がりが困難なため、「3. できない」を選択。

(1-5) 経管栄養時はベッドを30度程度まで起こし、入浴時はリクライニング式車いすを使用し、30～40度程度で座位を保てた。あまり起こすと首が前に倒れるなどの危険があると職員が話す。座位保持とは言えない状態のため、「4. できない」を選択。

(1-6～1-9) 脳梗塞後、困難な状態となった。全て「3. できない」を選択。

(1-10) 機械浴を行う。職員による「3. 全介助」。

(1-11) 職員が手足の爪を切っている。「3. 全介助」を選択。

(1-12) 糖尿病による視力低下のため、新聞・雑誌などの字は見えないが、約1m離れた視力確認表は見えた。

(1-13) 普通の声では聞こえにくく、少し大きめの声であれば聞き取れた。「2. やっと聞こえる」を選択。

2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗、2-2 移動、2-3 えん下、2-4 食事摂取、2-5 排尿、2-6 排便、2-7 口腔清潔、2-8 洗顔、2-9 整髪、2-10 上衣の着脱、2-11 ズボン等の着脱、2-12 外出頻度

(2-1) ベッドからリクライニング式車いすに、職員が2人で抱えて移乗。「4. 全介助」を選択。

(2-2) 職員がリクライニング式車いすを押して移動。「4. 全介助」を選択。

(2-3) 鼻腔から経管栄養が行われているため、「3. できない」を選択。

(2-4) 鼻腔から経管栄養が行われているため、「4. 全介助」を選択。

(2-5・2-6) オムツ・パッド使用で職員による「4. 全介助」。

(2-7～2-9) 口腔ケア、蒸しタオルによる顔拭き、整髪、全て職員により介助されている。「3. 全介助」を選択。

(2-10・2-11) 着脱は職員が全て介助している。共に「4. 全介助」を選択。

(2-12) 外出は1度もないため「3. 月1回未満」を選択。

3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達, 3-2 毎日の日課を理解, 3-3 生年月日を言う, 3-4 短期記憶, 3-5 自分の名前を言う, 3-6 今の季節を理解, 3-7 場所の理解, 3-8 徘徊, 3-9 外出して戻れない

(3-1) できるときもあるが、何を言っているかわからないときもある。

(3-2) 起床、就寝時間などを尋ねたが「わからない」と言い、その他の日課もわからなかったため、「2. できない」を選択。

(3-3・3-7) 生年月日・年齢を尋ねたが「わからない」と言い、場所を尋ねたが「息子の家」と答えた。「2. できない」を選択。

(3-4) 調査直前は、「朝ごはんを食べた」と答えたが、経管栄養のためごはんは食べていない。「2. できない」を選択。

(3-6) 「春」と答えた。「1. できる」を選択。

4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的, 4-2 作話, 4-3 感情が不安定, 4-4 昼夜逆転, 4-5 同じ話をする, 4-6 大声を出す, 4-7 介護に抵抗, 4-8 落ち着きなし, 4-9 一人で出たがる, 4-10 収集癖, 4-11 物や衣類を壊す, 4-12 ひどい物忘れ, 4-13 独り言・独り笑い, 4-14 自分勝手に行動する, 4-15 話がまとまらない

(4 群) 該当する行動はみられないとのことで、全て「1. ない」を選択。

5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服, 5-2 金銭の管理, 5-3 日常の意思決定, 5-4 集団への不適応, 5-5 買い物, 5-6 簡単な調理

(5-1) 薬は潰し、溶かしてから鼻腔より看護師が注入している。「3. 全介助」を選択。

(5-2) 息子が全て管理していることから「3. 全介助」を選択。

(5-3) 「喉が渴いた、何か飲みたい」など決まった内容のみ意思決定することがあるが、理解や判断力の低下で決定がほとんどできないため、「3. 日常的に困難」を選択。

(5-5) 流動食の購入は施設側が行い、日用品等は家族が購入している。「4. 全介助」を選択。

(5-6) 経管栄養で、流動食の温めを毎回職員が行っているため「4. 全介助」を選択。

6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

(6-9・6-11) 経管栄養とじょくそうの処置が行われるため、「経管栄養」・「じょくそうの処置」を選択。

7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）, 7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

(7-1) ベッド上で常時臥床し、自力で寝返りや起き上がりが困難であるため「C2」を選択。

(7-2) 一時も目を離せない状態ではないが、発語はほとんどなく、意思疎通の困難さがみられるため、「Ⅲ a」を選択。
質問しても家族のこともわからない。